

感慨ひとしお □ 実績など十分 □ 原点立ち返れ

「ポスト鳩山」をめぐる4日の民主党代表選では、県内関係の党国會議員の多くが菅直人氏の手腕に一票を託した。「党内結束で再スタートを」「厳しい政治局面を切り開いてほしい」などと、強い期待感を寄せた。

河北新報社の調べによると衆参9議員の投票動向は表の通り。菅氏に投票したのは郡和子、斎藤恭紀、石山敬貴、安住淳、岡崎トミ子、今野東の6氏。橋本清仁氏は樽床伸二氏に投票し、桜井充、大石正光の両氏は「言えない」と答えた。「市民運動出身の初の総理が誕生した。特筆すべき出来

民主代表選

事だ」と満面の笑みを見せたのは岡崎氏。菅氏と1996年の旧民主党結成にかかわり、ともに歩んできた。「感慨はひとしお。新しい党に生まれ変わる気持ちで頑張る」と喜んだ。

安住氏は「今、日本のリーダーに欠けているのは重みと仕事をやり抜く覚悟だ。実績、経験、経歴のすべてが申し分ない」と評価し、「長期政権を目指して全力で支える」と語気を強めた。

鳩山由紀夫首相の路線継承を望む声は根強い。「引き続き地球温暖化対策などに取り組んでほしい」と話すのは大

県関係議員票 菅氏に勝

石氏。斎藤氏は「代表選はやや盛り上がり欠けた」と物足りなさを感じながらも、「鳩山イズムを大切にしたい」と要望した。

菅首相の新内閣は、低下した支持率回復が急務になる。

「民主党は大丈夫という強いメッセージを発信してほしい」（石山氏）「個別の政策も大事だが、まずは党の信頼回復に全力を」（桜井氏）などを強調した。

一方、県内でただ一人、樽床氏に投票した橋本氏は「仲間間でもめたり、わだかまりを抱えたりしてられる状況ではない。菅氏が演説で用いた『ノーサイド』の言葉を信じ、一致団結する」との姿勢を強調した。

間近に迫る参院選を見据え、郡氏は「大勢の候補者が厳しい現状に置かれている。党全体が原点に立ち返り、国民生活第一の政治に取り組むしかない」と力を込めた。

党内では小沢一郎前幹事長に対する警戒感は消えていないが、今野氏は「菅さんは小沢さんだけでなく、それぞれグループときちんと話ができる人。党にとっても国民にとっても、最善の政治状況につなげてくれると思う」と分析した。